

痛みでデュロキセチン錠「ケミファ」を服用される患者さんにご家族の方へ

あなたがお飲みになるお薬は チェック です。



デュロキセチン錠20mg「ケミファ」

チェック

錠剤(原寸大)

表



裏



PTPシート



デュロキセチン錠30mg「ケミファ」

チェック

錠剤(原寸大)

表



裏



PTPシート



この薬について

- この薬は、長く続く痛みを和らげる薬です。
- この薬は、徐々に飲む量を増やしながら患者さんに必要な量を調整していきます。症状を改善するためには、決められた量の薬を続けて服用することが大切です。
- この薬は、痛みがあるときだけ服用する薬ではありません。継続して服用することにより、痛みを和らげる効果があらわれます。効果があらわれるまでの期間には個人差があるので、主治医の指示に従い、きちんと服用しましょう。
- 最初の1～2週間は、眠気や吐き気などの副作用があらわれることがあります。自然に治まってくることもありますが、気になる場合は主治医に相談してください。
- この薬を中止するときは、少しずつ服用量を減らしていきます。体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると、気分の変調があらわれたり、頭痛、吐き気などの症状があらわれることがあります。
- 錠剤を砕いたりせず、そのまま服用してください。

患者さんにご家族の方へ

うつ病など、精神科の病気で治療されている場合は、精神科の病気の症状に影響を与える可能性がありますので、服用前に主治医に伝えてください。

患者さんへ

- 飲み始めや飲む量が変わったときに、イライラして落ち着かなくなったり、生きるのがつらいと感じたり、消えてしまいたいという気持ちになったり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、患者さんによってまれにあらわれることがあります。
- 不安になる、あせる、興奮しやすい、攻撃的になるなどの症状があらわれることがあります。
- このような症状がある場合、主治医と相談の上、必要に応じて精神科／心療内科の受診をご検討ください。

ご家族の方へ

- 患者さんのこれらの症状に気づかれた場合、患者さんご本人かご家族の方から早めに主治医に連絡してください。

服用中は、下記のような点にもご注意ください。

- この薬は、肝機能、心拍数、血圧に影響を与えることがあります。そのため、血液検査、脈拍数や血圧測定を行い、異常がないか確認することがあります。
- めまいやふらつきにより転倒することがありますので、これらの症状を感じたら早めに主治医または薬剤師に伝えてください。
- 自動車の運転などが必要な場合は主治医に相談してください。眠気、めまいなど自動車の運転に影響を与える症状があらわれることがあるので、注意してください。またこれらの体調不良を自覚した場合は、絶対に運転しないでください。特に薬の飲み始め、飲む量を変えたとき、他の薬から変えた際にこれらの症状があらわれやすいため、主治医より運転などをしないように指示があった場合は指示を守りましょう。
- 糖尿病の患者さんでは血糖値やヘモグロビンA1cに影響を与えることがあります。その場合は、必要に応じて糖尿病治療薬の調整が行われます。
- 痛み止めとして用いられている非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)には、消化管出血の副作用が知られており、本剤と一緒に使用される場合はリスクが高まる可能性があります。気になる症状があれば、早めに主治医または薬剤師にご相談下さい。
- このほかにも、気になることや分からないことがある場合は、主治医または薬剤師に相談してください。

うつ病・うつ状態

でデュロキセチン錠「ケミファ」を服用される患者さんをご家族の方へ

あなたがお飲みになるお薬は チェック です。

チェック デュロキセチン錠20mg「ケミファ」

チェック デュロキセチン錠30mg「ケミファ」

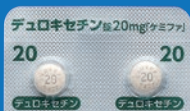
錠剤(原寸大)

PTPシート

表



裏



錠剤(原寸大)

PTPシート

表



裏



この薬について

- この薬は、うつ病・うつ状態を改善する薬です。
- この薬は、徐々に飲む量を増やしながら患者さんに必要な量を調整していきます。症状を改善するためには、決められた量の薬を続けて服用することが大切です。
- 効果があらわれるまでに2～4週間かかる場合もあります。すぐに効果があらわれなくても心配したり、不安になったりする必要はありません。
- この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると、「些細なことでも心配になる、いらいらする、あせる」などの症状があらわれることがあります。よくなった症状を維持するためにも、医師の指示に従ってきちんと服用を続けてください。
- 錠剤を砕いたりせず、そのまま服用してください。

この薬について

- 薬の飲み始めに、吐き気やめまいなどの副作用が出る場合があります。気になることがあったら、ご自身の判断で薬の服用をやめなくて、まず医師に相談してください。

主な副作用

- 吐き気
- のどの渇き
- 頭痛
- 眠気
- 便秘
- 下痢
- めまい
- など

このほかにも、気になることや分からないことがある場合は、主治医または薬剤師に相談してください。

服用中に注意する症状について

- うつ病やうつ状態の患者さんは、死んでしまいたいと感じることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲み始めや飲む量を変えたときに、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪化することがあります。このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- 「不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない」などの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
また、この薬との関連性は明らかではありませんが、このような症状があらわれた患者さんの中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。
- 自動車の運転などが必要な場合は主治医に相談してください。眠気、めまいなど自動車の運転に影響を与える症状があらわれることがあるので、注意してください。またこれらの体調不良を自覚した場合は、絶対に運転しないでください。特に薬の飲み始め、飲む量を変えたとき、他の薬から変えた際にこれらの症状があらわれやすいため、主治医より運転などをしないように指示があった場合は指示を守りましょう。

ご家族や周囲の方のサポート

- ご家族の方は、「死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来す」などの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する危険性について、医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化が見られた場合には、医師に連絡してください。また患者さんご自身も症状に変化があったと感じた場合は、ご家族や周囲の方にも伝えるようにしましょう。

18歳未満の患者さんの服用について

- 7～17歳のうつ病の患者さんがこの薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったという報告があります。18歳未満のうつ病の患者さんやそのご家族の方は、医師と十分に相談してください。